

当社の防火防災の取り組みについて

東北電力ネットワーク株式会社 仙台電力センター 送電課長 森 清孝

太白区郡山にある事業所には東北電力ネットワーク株式会社仙台電力センターおよび宮城制御所、東北電力株式会社宮城発電技術センターの三つの事業所が同居し、従業員約 240 名が勤務しています。

仙台電力センターでは宮城県内の仙台市を中心とする 8 市と県南すべての変電所の運転・保守・管理と宮城県内約 70%にあたる送電線の保守・建設工事を行っており、宮城制御所では宮城県内の電気を 24 時間運転・監視しています。また、宮城発電技術センターでは宮城県内の水力発電所と火力発電所の土木設備を保守・管理している事業所です。

事業所の防火体制として 3 事業所合同で自衛消防隊を組織し、毎年、出火想定場所を変えながら消防通報、初期消火、避難（誘導）および救護などの防火訓練を行って有事に備えています。また、近年は新型コロナウイルスの影響により中止されていましたが、今年久しぶりに開催された（公社）仙台市防災安全協会が主催する消防技術研修会にも参加し、消防技術の向上と防火意識の高揚を図っています。

当事業所では 2022 年 3 月 16 日の福島県沖地震により、太白区秋保町にある西仙台変電所において主要変圧器で火災が発生し消火開始まで時間を要した経験から、昨年度より同変電所を対象とした太白消防署との合同訓練を含む連携を強化する取り組みを行っており、今年も 11 月 21 日に太白消防署から 30 名、当事業所から 13 名の計 43 名が参加し訓練を行いました。今年の訓練では、被災ときに電動開閉式の正門が開閉できず消防車の入所に支障となった反省を踏まえ、消防隊へ電動門の操作方法を共有し消防隊が南京錠を破壊したのち電動門操作し入所する訓練と、当社管内最高電圧である 500/275kV 主要変圧器の碍子洗浄装置および主要変圧器消火装置を使用した消火・冷却模擬訓練を新たに追加して実施しました。

この他、7 月 24 日には、火災による周辺地域への影響が大きく消防車設置・消火対応にも

制限があり、複合ビルで避難にも時間を要するビル内地下変電所における火災対応訓練を青葉消防署やビルオーナーと合同で実施しています。

また、防災面では事務所の場所が名取川と旧笹川、広瀬川といった河川が合流する近隣に立地しており、仙台市防災ハザードマップにおいて 1.5 m 以上の洪水浸水想定区域であり、立退き避難が必要な区域に指定されているため、事務所建物周囲を防水壁ならびに止水扉で囲う対策を 2024 年度に計画しています。この対策が完了までの間、車両の移動とボックスウォールを設置した浸水対策を実施することにしており、毎年訓練を行い、有事に慌てることなく対応できるよう備えています。



碍子洗浄・主変消火装置による主要変圧器への放水状況



太白消防署・仙台電力センター合同訓練



事務所玄関へのボックスウォール設置状況